

## アスペいおりのてへぺろ成功学

●まえがき

私は、早朝のスーパー品出しのアルバイトに向かう車中、こう思った。

「よし、『成功学』の本を書こう」

多くの人は、『成功法則』や『自己啓発書』を成功者だけが書いていいと思っている。

しかし、それは思い込みだ。もう書いちゃっていい。どうせじきに成功する予定だ。少し前倒しするぐらいなんでもない。誰に迷惑をかけるわけでもないのだ。今にもアルバイトをやめて無職になるうとしている35歳が書いてもいいじゃないか。説得力？そんなの後からついてくるもんだ。だって書きたくなってしまったんだ。だから、私は書く。前書き、以上。

●35歳過ぎたら、100点を目指すな

### 1. 窓ガラスをどこまできれいにするか問題

私は、家でベランダ窓の掃除をしていた。まめな方ではない。一年ぶりくらいだ。水に浸らせた雑巾はあつという間に黒くなる。なんとか、窓ガラスを全部吹き終わった。しかしまだ汚れている部分がある。棧(サン)だ。サンの下部分は真つ黒だ。雑巾をつっこみ滑らせる。面白ぐらいに汚れが取れていく、(というより、ヘリの方へ寄せられていく)。角に到着し、見上げる縦に伸びている部分もかびだらけだ。どうすればいい？一応吹いておくか。そこまで、すると上も気になってくる。水を吹き付けると、どろどろに濁った水も透き通っていく。全部きれいになったら、どれだけ気持ちいいのだろう。いや、さて。現時点で結構な時間がかかっている。このあとサンに付着した汚れを完全に除去するにはどれだけの時間がかかるのだろうか？おそらく小一時間かかる。私はサンを汚れが完全になくなるまで本当に掃除すべきなのだろうか。

逆に考える。もし私が残を完全にきれいにして、私はどれだけの特典が得られるのだろうか。私は未だかつ

てサンがきれいになったことでHAPPYになったのはいつだ？ない。多分、終わった直後くらいだ。バイト代だってもらえない。雨風が打ち付ける出窓上になっている。おそらく、数週間たてばまた汚れるだろう。窓に付着しているかびや、網戸の汚れは放置すれば健康被害になりそうだが、サンが少し汚れていたところで日常生活に大した支障はない。サンは、小一時間かけて掃除するに値しないのだ。それなのに私は、「高圧洗浄機を買えばもっと綺麗になるのではないか」おうかとさえ考えてしまった自分を恐ろしく感じた。BENRYかよ、と自分に激しくつつこみをいれたくなった。

そして、考えたのだ。

私は、この「してもしなくてもかわらないこと」に時間をを使うことを阻止できなければ、人生の多くの時間を無駄に過ごしてしまう。

● 『できそうだからしてしまおう』の罨

もしサンが、掃除できない構造であつたら、どれだけ汚れていても掃除をしないだろう。掃除をしてしまうのは、『できそうだから』に過ぎないのだ。

『できそうだからしてしまおう効果』は人間の奥深くにしみついている。時として、罨となる。『男性用小便器』にはこの人間の業のごとく備えられた抗えない本能を巧みに利用されているのをご存じだろうか。そう、『的シール』だ。場所によって蠅のシールなどデザインは異なるが、おしっこをかけると、色が変わる。コースアウトを防ぐためにつけられている。『的』に的中しようと、表彰されることもなければ、パジェロが当たることもない。なんのメリットもない、しかし、男なら誰しもそれを狙ってしまう。それは、『できそうだから効果』の呪縛である。

● もうすでに『できる』ことをやる意味

私は、もうすでにできることを完全にやることに価値を見出せない。達成感を感なくなってしまったからだ。子供は足し算のドリルをやる。間違えたり、間違えなかつたりしているが、マスを全部埋めると、満足げだ。丸付

けをして、満点だと喜ぶ。これで達成感を感じられるのは、子供が完璧にできることだからだ。私が足し算をやれ、と言われたらそれは苦痛でしかない。もし、必要だとしても、それは私がやるべき仕事ではないのだ。100問のうち、10問を解いたら見通しをつけることができる。残りの90問はやればできる、ということがわかる。やればできるということが分かっているなら、あとは無意味な作業である。早く、漢字の書き取りなど愚の骨頂だ。

わたしは、アルバイトをやめた。それは、ひどく苦痛になったからだ。どういう手順出淹れれば、いいかわかる。あとは磨きをかけていくだけである。職人になるということである。おそらく、早くなる。しかし、早くなるだけなのだ。私はそこに喜びを感じられなくなった。他にも難しい問題に取り組めれば、新しい問題を解けることが分かっているのに、もうわかってる足し算をひたすらやらされるような苦痛に耐えられなくなった。おそらく、が 필요한のは学生で終わりだ。

●100点を目指す社会構造

未完成を売れ！完成させるな。テツトモモデル、(テレビは営業。マスに出なければ干されたという洗脳。)

●近所の老舗スーパーはなぜため口がゆるされるのか？

●例外予算がある、お金と法律がからむこと。「給料未払い」や「違法行為」はてへべろで許されない。

●大企業は博打に出れない。

●「エビデンスは？」の意味

科学的根拠がない。裏とりができない。やっつてる暇がない。

完璧主義は、科学的データを重んじる。私も、自分に適応する情報は科学的根拠を参考にするが、結局科学的根拠も絶対視できない。外れ値がある。個人差がある。睡眠時間も、ショートスリーパーとそうでない人は違う。一律に、科学的に睡眠時間は8時間がいいとは言えない。全ての人に当てはまるデータはない。結局、科学データをもう一度自分にフィットするように組み合わせしなさいといけない。パーソナルな経験則を科学的根拠で普遍化した後に再度パーソナライズするのは、ちよつと手間がかかる。カップ麺のフリーズドライみたいな作業だ。科学データの裏付けができてから発信しようではなく、科学データは自分の発信した情報を応援してくれる力強い味方、サポーターくらいに考える。あとで、間違えていたとしても、こっそり消す、指摘されればとへへるで解決だ。すぐに覆ってしまう。

● 誤植を出してはいけない辞書と、間違いだらけでも世界中から情報をあつめる wikipedia

船を編むという映画を見た。てへへると対極だ。何十年とかけて辞書をつくるのだ。

新聞誤字脱字は誤認ではない、それが許せない社会。フェイクニュースは事実誤認だが、ソースが不確かな情報は人には話せないが自分には役立つ。どのみち、間違いは指摘したい誰かが指摘してくれる。

wikipedia は完成しない。オープンソースモデル。だが、未完成でありながら価値を生み出している。正確さは辞書にまねできないが、情報の量と速さで上回っている。

● ムラが許されるビジネスモデル  
キャラクターで売れ。

● 漁師の船で、賄いが限定00食出せない理由、ゲザイナーの色合わせは宗教、時代はオンデマンド、ムラは生じることをよしとする、オープンソース、どうせ治し

続けなきゃいけない。だいたい10リットル汲むか、きっちり汲むか。大量生産の大企業はムラが認められないシステム。テヘペロが許せる社会へ、舌ペろで謝れない。金を出したいひとが金を出す。

マツクのサービスの世界中心も一緒。その一貫性すら一つの個性に過ぎない。

90パーセントを100%にすることはエネルギーの無駄。窓のサンを掃除していた。

人間がやることはムラが生じる、人間がムラがあるから。私はそのムラムラ人間の代表格。その個性を潰すのが企業、同一品質至上主義。

クズ社員を辞めも、矯正も出来ない大企業。予算割いて異動の繰り返し、その予算はどこからねん出しているのか。

ドリルのようなやでできる問題をやる必要はない。もうわかっているのだ。単純作業、暇つぶしで出来る。

● 『誠実さ』が一番大事  
誠実な人は、てへペろで許される。

同じことをしても、「怒られる人」と「怒られない人」がいる。一つはキャラクターである。誠実だと思う人は、怒れない。許してしまう。だから、誠実だと思われよう。それを決めるのは他人だが、自分は自分のルールを守る。

誠実とは嘘をつかない、欺かない。自分に、人に。自分はないというなら、それはウソか、欺くことが当たり前すぎて気付いてないかのどちらか。私は商品の品出しをするとき、場所のわからない商品が入ってきたり、売り場に放置されたりしている。それを戻すようにしているが、終業に近づくと、面倒でやりたくない。でも、それは欺きた。やらなければいけないことは、じぶんでわかっている。それを今日だけは手を抜く、という選択もあるが、楽な道をつくることだ。楽な道を作ると、人間は楽な方に流れる。つまり、日常化する。それが日常化すると、絶対にぼろが出る。昨日の担当者が、場所のわからない在庫品を放置していると、「ああ、見て見ぬふりしてるな」と思う。そういう人だな、と思う。逆に、小さなことをしっかりできる人は、信頼される。100回



やって、一度も見ぬふりをし  
なかつた人はわかる。自分を  
欺く習慣を捨てよう。誠実な  
人とは、小さなことにも忠実  
な人だ。

●私がつてへへろ成功学をや  
る理由。

私の作品は、永遠に完成し  
ない。寿命く全てアイデアの  
制作時間。

永遠に直してしまう。でも、99%を100パーセントに  
するには、ものすごい時間がかかるのに、大差ない。も  
はや宗教。完成品にしかお金を払わないのが社会。

●昭和くらいまでは、ほとんどのことがてへへろで許  
されていた。

隣の子供を叱ったり、データが残らなかつたからだ。  
豆腐を切り売りするのに、タニタの精密はかりはいらな  
かつた。信頼関係があつたから。